NIE実践報告

1．タイトル：☆筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

2．学校名

北海道札幌市立平和小学校

3．実践者名（代表者名）

志村知子

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　35人

6．単元（本時の学習課題）名

筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

7．目標(狙い)

・「平和のとりでを築く」を読み、筆者が訴えたいことを読み取ることができる。
・「平和」に関連する新聞記事を探したり、インターネットで調べたりして、「平和」について自分の考えをもち、組み立てて考えて意見文を書くことができる。

8．評価の視点

「平和」についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、自分の考えをわかりやすく組み立てて書くことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「平和のとりでを築く」（教科書教材）　8時間
意見文を書く　6時間　　合計14時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①教材文「平和のとりでを築く」を読んで、学習のめあてをもつ。（1時間）
②「平和のとりでを築く」の要旨をとらえて筆者の考えを読み取り、事実と意見を区別してとらえて自分の考えをもつ。（7時間）
③「平和」の関連した事柄を新聞やインターネットを使って調べる。（4時間）
④教材文や調べたことをもとにして自分の考えをもち、意見文を書く。（2時間）
（留意点）
・情報活用単元の系列である。
・教材文を読み「平和」についての思いや考えを深めた後、社会科の学習とつなげながら「平和」について感じたこと、もっと知りたくなったことを出し合って問題意識を高める。
・教科書の作文例や投稿例を読みあい、自分にも書けそうだという見通しをもたせる。
・事実と意見を区別して書くことを意識させる。
・新聞の読者欄に投稿することを伝え、相手意識をもたせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞やインターネットから紛争の様子や地雷、子どもが兵士となっている事実を調べ、日本が平和であることに安堵していた。苦しんでいる人のために自分に何ができるかを考え、事実と自分の意見を区別して意見文を書くことができた。読者欄に採用された児童がいたため、別のテーマで取り組んでみたいと意欲をもった児童が多かった。

12．成果と課題

・新聞を利用したことで広く世界や社会の様子に関心を持たせることができた。
・新聞が自分の意見を発信できる場の一つであることを認識させることができた。
・記事の内容を理解するには、教師の支援が必要であった。小学生新聞など児童のレベルに合った新聞資料を用意できると良かった。